

## 6

## アデンプルック病院の創設と発展

柳澤 波香

青山学院大学／津田塾大学

アデンプルック病院 (Addenbrooke's Hospital) はケンブリッジ大学病院群を代表する病院である。病院は、ケンブリッジに学び、後にロンドンで開業医となったアデンプルック医師 (Addenbrooke, John, 1680-1719) の遺言に基づき、1766年にケンブリッジ市内中心部に設立された。

アデンプルックはスタフォード州に牧師の子として生まれ、1697年、ケンブリッジ大学 St Catherine Hall (現 St Catherine's College) に入学した。当初は牧師を志したが在学中に医学、薬物学に興味を持ち、学部終了後は大学で一時期薬物学を教えた。当時のケンブリッジ大学では欽定教授による医学講義は不定期で充実したものではなかった。医学を志す学生は自ら医学書を読み、個人教授や薬局のアポセカリから実地で医学、薬学を学んだ。1706年、アデンプルックは王立内科学会より開業資格許可を取得し、更に、1710年、ケンブリッジ大学でMDを得た。結婚後はケンブリッジを離れロンドンで開業したが、数年で健康状態が悪化し、1719年に死去した。アデンプルックはケンブリッジおよびその周辺の疾病貧民のために病院を建てることを遺言し、4000ポンド余りの遺産をのこした。しかしながら管財人らの病院設立活動は不活発で、資金不足も生じた。1750年代末、新たな管財人、議会、篤志家が協力し、敷地の購入、病院の設計、建築が漸く始まった。アデンプルックの死去から病院開院までには47年もの年月を要した。

1766年、アデンプルック病院は20床で開院し、Plumtre, Glynn, Collington (GlynnおよびCollingtonはWilliam Heberdenの弟子) ら3名の内科医、Hayles, Hopkins, Thackerayら3名の外科医が病院医師を務め、彼らは週3日午前中に勤務した。病院医師はケンブリッジで既に開業しているかまたは大学のメンバーである医師が選任されたが、なかには病院での診療に必ずしも熱心ではなく、短期で辞任する医師もいた。病院には住込みのアポセカリ1名がおり、アポセカリが必要と判断する場合、病院医師は勤務日以外でも診療にあたる旨が定められていた。

19世紀初頭、病院は資金難に直面したが、1813年、地元の書籍文具商ら篤志家の寄付を得て病院建物の拡張が図られた。1838年、パジェット (George Paget, 1890-1892) が病院医師に着任するとそれまで低迷していたケンブリッジにおける医学教育、研究は急速に伸展した。医学欽定講座教授となったパジェットは医学士試験に臨床能力試験を導入した。また、ロンドンの St Bartholomew's Hospital から外科医ハンフリ (George Humphry, 1820-1896) をアデンプルックに招いた。ハンフリは54年間にわたり病院医師を務め、診療、教育、病院建物の再建築に積極的に携わった。医学知識、技術の向上を願い、ケンブリッジ医学協会の設立に尽力し、学外の医師にも参画を呼びかけた。1876年、アデンプルック病院では看護師 (看護婦) の養成が始まった。

20世紀に入り、両大戦期にはアデンプルック病院は近隣に設立された戦時病院と連携し、傷病兵の治療にあたった。戦後、1948年のNHS施行に伴い、病院はNHS傘下に入り、英国内の指定教育病院の一つとなった。現代医療のニーズに対応するため、1950年代末より市郊外において新病院の建設が開始された。病院機能の移転は1960年代初頭に始まったが病院機能の移転が完了したのは1984年であった。

アデンプルック医師が地域の貧しく病める人々に寄せた慈愛の心から生まれた病院は現在1000床の英国有数の先端的治療、研究の拠点病院となった。2020年、英国政府は2030年までに新たに40の新病院を建設する構想を発表した。アデンプルック病院の隣地には癌治療研究専門病院の建築が予定され、癌治療研究分野での一層の発展が期待されている。